

第一回「ほんとはこわい アルコールの話」



講演者：渡部 三郎医師（精神科医師、愛媛県精神保健福祉協会副会長）

〔講師紹介〕 昭和54年 6月 愛媛大学医学部精神科入局
昭和56年 4月 財団法人正光会 入職
昭和58年 2月 財団法人正光会御荘病院 院長
平成12年 5月 財団法人正光会宇和島病院 院長
平成27年12月 財団法人正光会宇和島病院 医師
※昭和60年「南宇和こころの健康を考える会」、
平成元年『南宇和精神障害者の社会参加を進める会』の設立に尽力

さる6月12日（土）、当院のメンタルヘルスケア啓発活動の一環として、愛媛県精神保健福祉協会宇和島支部の後援のもと、「第一回 こころの健康講話」を開催しました。

今回は精神科医師であり、依存症治療の専門家である渡部三郎先生より、「ほんとはこわい アルコールの話」と題して、アルコール依存症の症状と治療・対処法についてお話し頂きました。

ご講演の中で、アルコール依存症の大多数の方がアルコール肝炎などの内科的疾患で病院を受診しているものの、依存症としての治療がなされずに回復せず、死に至っている現状などがデータとともに示されました。また、アルコールが脳を傷つけ、特に前頭前野という領域に影響を及ぼすために、依存症の方は他者への思いやりや誠実さなどの「人間らしさ」を失っていく事が多く、そのために家族や職場の仲間など周囲の方の信頼を失っていく事などが紹介されました。酒を止めても離脱症状などの影響は3年間は続き、真の回復には時間がかかる事、さらに酒を止め続け、かつ「人間らしさ」を回復するには、「断酒会」やAAなどの自助グループへの参加が必要である事を述べられました。

会場は、新型コロナウイルス感染対策の徹底と来場制限を行い、併せてミーティングアプリ「zoom」によるライブ配信も行い、20名の方にご参加頂きました。

質問も多数出て、活発な質疑応答がなされました。

今後もメンタルヘルスに対する正しい情報を、専門家より、地域の皆様に直接お届けする事で、地域の皆様のお役に立ちたいと考えております。次回も皆さまのご参加をお待ちしております。ありがとうございました。

